いつもの改善から、新しい役立ち方へ。

「スマートクリエイティブマネジメント®」の発売発表を、いまの仕事へ。



例：受入れ時の照合作業を見て、表示を一緒に考える。

2020年10月27日 発売発表

企業のリーダーとの実践から、
五つの開発課題を整理。

22年間の研究開発

観察・分析

創造性を発揮する約30,000人の
思考・行動パターン

提供

約750社・延べ54,000人への
コンサルティングと訓練

五つの問いで、次の仕事を具体的に。

研修や会議を、将来を描き、今の事業で何を始めるかを考える訓練へ。

発表当時の開発課題	いま取り組む一件なら
① 目指す将来を、どう具体化するか	相手の仕事で、どんな状態を実現したいか。
② 関心を広げ、何を取り入れるか	自分がまだ見ていない、相手の実務へ。
③ 新しい行動を、どう続けるか	試す一件、使える時間、関わる人を整える。
④ 経験のない状況に、どう対応するか	予想と違った反応を、次に考える材料にする。
⑤ 自発的に取り組める関わりを、どうつくるか	相手の気持ちや事情を知り、関わり方を選ぶ。

改善した先に、相手が進める仕事がある。

部品の納入は速くなった。受け取る人は、その後に何をしているだろう。

自社が進めた改善

注文を受ける
準備する
正しい部品を、早く届ける

受け取った後に進める仕事

注文書と箱を照合する。
部品の行き先を確かめる。
使う部署へ渡す。

「照合に、まだ手間がかかっていて……」

これまでの品質と納期の経験を生かし、相手が使う場面にもう一歩、関心を広げます。

「できたら」を、一つの見本にしてみる。

例の続き：受入れ時の照合に使える表示を、相手と相談します。

まず、仕事を見せてもらう

どの注文と照合し、どこで確かめ直しているか。相手の話と実物から、
表示に必要な情報を選びます。

箱に付ける表示の見本

注文番号 ／ 部品名
渡す部署 ／ 確認が必要な点

対象を一つに絞る

一つの納入品目で試し、
受け取る人が照合する様子を見ます。

次に見るのは、相手の進み方と双方の負担。

探す手間や誤り、自社の作成・確認の手間を見て、
続けることと変えることを一緒に選びます。

自分の関心を、相手に役立つ案へ。

Grant & Berry（2011）による、職場研究と実験の知見から考えます。

二つの職場研究と一つの実験で、仕事への関心、他者に役立ちたい動機、
視点の取り方と、創造性の評価との関係を検討しました。仕事への関心と
創造性評価との関係は、他者に役立ちたい動機が高いときに強く見られました。

自分が、考えたいこと

どんな技術や経験を、
別の使い方へ広げてみたいか。

相手が、進めたいこと

誰の、どんな仕事で
役に立つものにしたいか。

当社の実践と照らし、相手への役立ち方から案を考える参考にします。
五つの開発課題と、外部研究の対象・方法は分けて読みます。

Grant & Berry（2011）原典・著者原稿を読む

構想が言葉にならなくても、始められる。

「ビジネスメイキング」で、自分に近い仕事の見本を一つ眺めます。

相手の「できたら」から

お客様や同僚が、もう少し楽に進めたい仕事を考える。

技術や経験の使い道から

持っている知識や道具を、別の役立ち方へ広げる。

新しい案を試すところから

相手に使ってもらい、選ばれる理由や続ける条件を見る。

「近い場面を眺める」から、一つ選ぶ →

最初に文章を書かなくても。近いところ、少し違うところを探してみてください。

資料を渡した後、相手は何を進める？

最近の提案や引き継ぎを一つ思い浮かべ、次に読む資料へ。

「相手の仕事から、考え始める。」を読む →

自分が済ませた仕事と、相手が次に判断・実行する仕事を並べます。
本人に確かめたことと自分の想定を比べ、一部を変える使い方が読めます。

最近の一件を、読む材料に

提案や資料を渡した後、相手は何を進めようとしていたか。
自分が想定していたことと、相手に聞いて分かったことを並べてみてください。

2020年10月27日の発売発表をもとに、仕事での使い方を整理。
図解PDFと公開資料の案内は、2026年10月25日時点の補足です。

自社の仕事や育成での活用について相談する →